

名 前	第5回茨木市部活動の地域移行検討協議会（まとめ）		
日 時	2025年10月3日（金） 16:00～17:30	場 所	茨木市教育センター セミナー401号室
出席者	【委員】 14名 ■辰本委員（委員長）・廣瀬委員（副委員長）・栗生委員（副委員長） 松元委員・壽崎委員・塚本委員・柿原委員・福田委員・西浦委員 （事務局兼任）九鬼委員・坪田委員・上垣内委員・大池委員・田中委員		
	【事務局】 7名（事務局兼任含む） ■市民文化部 スポーツ推進課 九鬼課長 坪田参事 ■茨木市教育委員会 学校教育部 学校教育推進課 ■教職員課 大池課長、田中課長代理、森山指導主事、川本主査（記録） 上垣内指導主事		
欠席者	■1名 田中委員		

【資料】

※資料参照

【第5回 議事内容(まとめ)】

1 はじめに

事務局より

（事務局より）以下3点の確認を行う。

- ・安威川 FC 代表を講師として招聘し、本協議会に参加いただく点について

（あいさつ）学校教育推進課 大池課長より

様々なところで部活動の今後について質問を受けることがあり、全国的にも、周辺でも関心が高まっていることを実感している。また、本市の子どもたちの実態を鑑みず、地域展開が進んでいくのではないかという危惧や不安についてお聞きすることもあるので、本市の実態に適した形をしっかりと検討してまいりたい。本日は、実践事例の成果や課題についての報告をお聞きできるとのことなので、議論をさらに深める場にしていきたい。

（あいさつ）辰本委員長より

大学も後期がスタートして学生も大学に戻ってきた。部活動のことについて学生に話題をふると、「部活動が全国的にそんな風にことを全く知らなかった。」といった意見を多く聞いた。こちらとしては発信している本来届いておかなければならない方にしっかりと情報が伝わっていないと混乱が生じる可能性がある。今後、市の計画が策定されたら、発信して関係者の当事者意識を高めることも課題になってくると思うので、今日の実践報告もお聞きしながら、みなさんのご意見をさらに具現化できる場になればと考えております。

2 実証事業(モデル実施)の進捗状況の報告について

○安威川 FC 代表より報告

- ・①目指す GOAL → ダブルゴール(競技性と地域性)
地域のスタジアム(第3の居場所)となるような環境づくりを進める。
- ・②現状の部活動 → 週末の活動や指導者(顧問)の確保について、競技にもよるとは思うが逼迫している状況にあると感じている。

- ・③課題 → 合同チーム・拠点校はある程度広がりを見せているが、部員数が増えると、現在の規定では合同チームでの大会参加ができない等、中体連の大会出場に関して難しい部分もある。
- ・④成果 → 地域を大切にしながら、ブロック制を導入してみた。前述した合同チームの規定等で難しさもあるが、一方4校(チーム)程度が関わることで指導者の充実を図ることができた。
東ブロック(安威川 FC)の生徒の登録は現在53名、指導者も兼職兼業の教職員含め登録していただいているので、ローテーションでの指導も実施できている。
現段階では、活動は2~3回/月、3名以上の指導者/回。ダイヤモンドリーグを地域クラブで出場している。指導者側のゆとりもできたと感じている。また、地域クラブであれば、1年毎に顧問の異動等による廃部の不安が薄くなる等、今後進学予定の児童や保護者にとってもプラスになる面があると考えます。
- ・⑤懸念 → 多くの指導者が関わることできめ細やかに子どもたちの指導・支援を行うことができるようになる一方、対話が不十分であれば、指導者間の認識のずれや対立が生じる可能性もある。
- ・⑥おわりに → スポーツに取り組みたい子ども、子どもを応援したい保護者、指導者として携わりたい学生観戦したい地域の方々が学校に集まり、次なる茨木には「歓声があがる」のではないかな。教育的意義を継承しつつ、地域密着の方向性に進めるのがよいのではないかな。

(質疑応答)

Q:安威川FCが立ち上がる前後の三島中学校サッカー部の活動はどのように行っていたのか。

A:現在のところ、安威川 FC として中体連の大会出場はしていない。あくまで練習会(練習試合含む)中心の活動である。部活動の練習頻度に大きな変化はないが、地域クラブの指導にあたっていない顧問はもちろん、地域クラブの指導にあたっている顧問についても、例えば、A校の生徒が地域クラブの練習に参加したとき、B、C校の指導者等が指導にあたれば、A校の顧問は休むことができるため、時間外等の業務時間は減少がみられる。

Q:参加している生徒の費用負担については、どのような形ですすめているのか。

A:年間800円の保険料(スポーツ安全保険)を支払ってもらっている。別途、以前まではウェア(ビブス)で試合をしていたが、オレンジ色のユニフォーム(8000円)を希望制で購入してもらっている。安威川FCは学校持ちにはできないため、個人もちの形をとっている。現在、安威川FCに参加している生徒は、ほぼユニフォームを購入している状況である。

Q:試合の出場について、今後どのような見通しをもっているのか。

A:今後の社会的な状況を鑑み、サッカー協会の大会に出場するのか、中体連の大会に出場するのか、といった議論はある。まだ、今後の方向性を模索している段階であるため、今後の活動を通してよりよい方向性を見出していきたいと考えている。

Q:指導者への謝礼については、どのように設定しているのか。

A:今年度は市の実証事業として実施しているため、国・府の補助をあてて、指導者の謝礼を市より支出していただいている。そのため、現在は参加している家庭から謝礼分の集金等はしていないが、持続可能なものにしていくためには、将来的には一定の受益者負担は必要ではないかと考える。ただし、できる限り廉価に抑えられるようにしたい。

Q:4つの中学校の部活が集まって構成されているが、例えば内1校に部活動がなくとも参加可能なのか。

A:その場合であっても、地域クラブとして出場する場合は問題ない。中学校として大会に出場する場合は、人数規定等が設定されている。この規定は種目によって異なるものと認識している。

Q:平日の活動場所はどのようにしているのか。

A:西河原小から2校(三島中・太田中)へ進学する。火曜日・木曜日は太田中、水曜日・金曜日は三島中。月曜日はオフを基本としており、休日の練習は双方で行う等のバランスはとるように意識している。

Q:現在取り組んでいる形式は、他の競技でも実施可能であると考えられるか。

A:可能であると考え。自身の経験上の話にはなるが、特に団体競技は適するのではないか。個人種目は大会出場の枠があるような競技もあると聞くので、練習会等は問題ないと思うが、大会出場を含めるとチームからの制限枠の関係でデメリットが生じる可能性もあるのではないだろうか。

Q:ブロック制を現在とられているが、茨木市全体で何ブロック程度あればよいと考えられるか。

A:部の運営会議において、R6末に見通しを伝えた。顧問の想いや選手数、場所、移動距離を鑑み、主観にはなるが、サッカーでは少なくとも3つは必要であると考え。また、部員数に応じてにはなると思うが、6つを超えると少し多いようにも感じる。柔軟な対応は必要になると思うが、一方で毎年変更するような形は望ましくないと考えるので、ある程度3年(中期的なスパン)ぐらいで見直し等していく方がよいのではないだろうか。報告でも伝えたとおり、地域(ブロック)を大事にした活動にしていきたいと考えている。

Q:指導方法や指導観について指導者同士の対立等の不安はないか。

A:懸念はある。週末が中心だが、安威川FCではスタッフミーティングを必ず行うようにしている。私が方向性を決めたくて、共有を図るように心がけている。指導にあたるスタッフは1つになっていかないと難しさはある。子どもの活動は3~4時間だが、スタッフミーティングを行うとなれば、指導者の拘束時間はもう少し伸びるが、指導者の育成も非常に重要であると考えている。

3 茨木市各部活動代表ヒアリング報告について

事務局より

- ・12種目の部(顧問代表)からヒアリングを行った。

現在市のガイドラインにおいて、部活動は原則、平日5時までの活動(推奨)、休日(土日)はどちらか1日の活動としている。バランスが取れてよいという声がある一方、もっとやりたいという声もある。また、部活動指導員の定員は満たしており、部活動指導者は現在約80名程度が配置されている。

課題については、例えば、専門的な指導ができる顧問が1名だけであり、指導、引率、審判などを一手に引き受けなくてはならないような状況の部もあり、非常に苦勞されている。また、生徒数は多いが、市内で専門的な指導ができる指導者が少ない等の課題を抱える部もある。

- ・今後、平日は学校での活動を中心に行い、休日は別の指導者が地域クラブで指導を行うような形で地域展開を進めたときに、平日の指導に顧問がどのように関わればよいのかという不安の声が多かった。また、大会の参加において、地域クラブでどのように参加するのかについては、種目によって規定や資格要件が異なることもある。全国で見れば、認定の地域クラブが全国大会に出場しているようなケースもある。安威川FCのように指導者間のまとまりが今後の推進において重要であると考えている。

4 茨木市部活動地域展開に係る推進計画(案)について

事務局より

- ・今年度、実証事業を3つの地域クラブで進めていただいている。現在は、国の補助金を活用し、指導者の謝金は市が勤怠管理等も行い支払っている。完全実施後は、受益者負担が一定必要になると想定している。そのため、事前に丁寧な周知を行い、生徒や保護者、教職員を含めしっかりと理解を得ることが大切になると考えている。
- ・国の動向をみると、自治体が地域クラブを認定していく動きがさらに進んでいくと予想される。ただし、乱立を避けるため、運営団体(事務局)のかじ取りは必要になると感じている。本市の人口予測からも子どもの数は今後減少していくことが予想されており、この傾向は茨木市だけでなく、全国的なものであるため、持続可能な体制の構築が不可欠である。
- ・他自治体の実践事例を説明・・・今後の地域展開で想定される課題への対応として、6項目について本市の方向性を示す。

5 協議および意見交流(各委員より)

Q:指導体制について、今後指導者に資格を求めるような動きは想定されているのか。

資格があれば良いという訳ではないが、一定、質の保障と参加者の安心につながると考えるが、どうか。

A:理想は資格を持っている方に指導していただくのが良いと考える。一方、それを指導者の条件とすると、指導者の確保が困難になるといった先行自治体の課題も聞いている。一定の期間を設け、資格をとっていただくことも検討しつつ、指導前には必ず市の研修を受講する等は必須であると考えている。また、一度受講したら終わりではなく、継続した研修の機会を設けることも必要になっていくものと考えている。

○事務局よりまとめ

次回、実証事業の報告として、「いばりつバドミントンクラブ」で中心的な役割を担っている立命館大学の学生を招聘したい。

→異議なく、承認。

6 おわりに

スポーツ推進課 九鬼課長より

本日は、各委員より貴重なご意見を賜りあらためて御礼申し上げます。

事務局から、主に、モデル実施の状況や、地域展開を進めていく上で特に重要な要素を占める「運営団体」の形において、一定の方向性や、今後のスケジュールについて、お示しをさせていただきました。今後は、モデル実施の中で示されている「課題」を整理しながら、解決策をいかに体制の中に盛り込み、円滑な実施体制を構築していくのか、引続き、検討してまいります。

いずれにしても、辰本委員長からもあったように、子どもたちのスポーツを通じた、子どもたちのために、子どもたちの健全育成の環境づくりとして、これまでの学校現場での部活動が、特に切れ目なく、スムーズな移行が図れるよう、その体制のあり方について、検討の必要があり、また、円滑な実施には、特に保護者の方々の理解が必要不可欠であると考えているので、その丁寧な説明にも併せて、努めてまいります。

今後も、地域展開の実施まで、もうしばらく期間を要するものと考えており、各委員には引き続き、本協議会での変わらぬご協力、ご支援を賜りたい。

(次回の開催連絡)

- ・第6回:令和7年11月17日(月)16時 市教育センター4F401号室 にて開催予定
- ・第7回:令和8年2月6日(金) 開催予定